

# 農作物病害虫発生現況情報（8月） 水稻編

## 1 いもち病

### (1) 葉いもち

8月上旬の巡回調査（全県：176圃場）では、発生圃場率は2.8%（平年5.2%）で平年より低く、上位3葉における発生圃場率は6.9%（平年8.7%）で、平年並だった（図1、2）。

### (2) 穂いもち

8月下旬の巡回調査（74圃場、沿岸部除く）では、発生圃場率は12.2%（平年5.9%）で平年より高かったが、発生程度少以上の圃場はみられなかった（図3）。

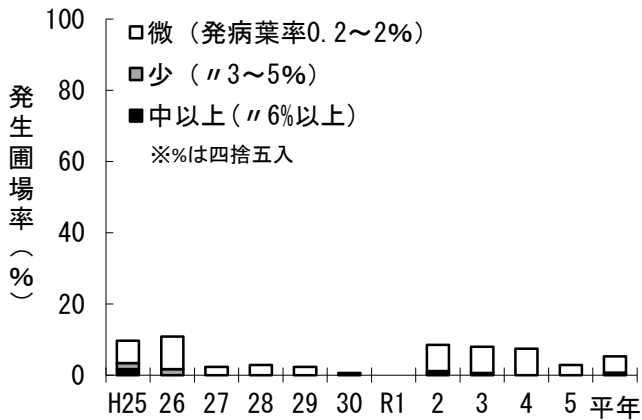


図1 葉いもち発生圃場率の年次推移（8月上旬）

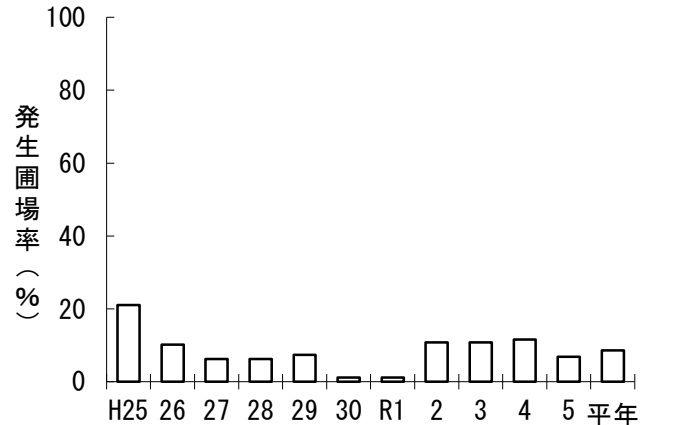


図2 上位3葉における葉いもち発生圃場率の年次推移（8月上旬）

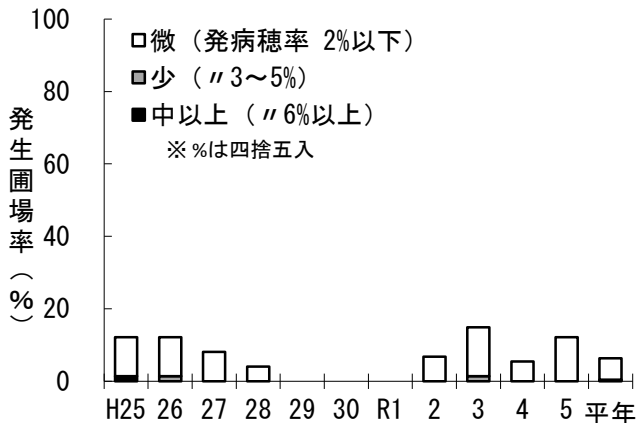


図3 穂いもち発生圃場率の年次推移（8月下旬）

## 2 紋枯病

(1) 8月上旬の巡回調査では、発生圃場率は13.1%（平年16.4%）で平年並だった（図4）。

(2) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率は43.2%（平年39.3%）で平年並だった（図5）。

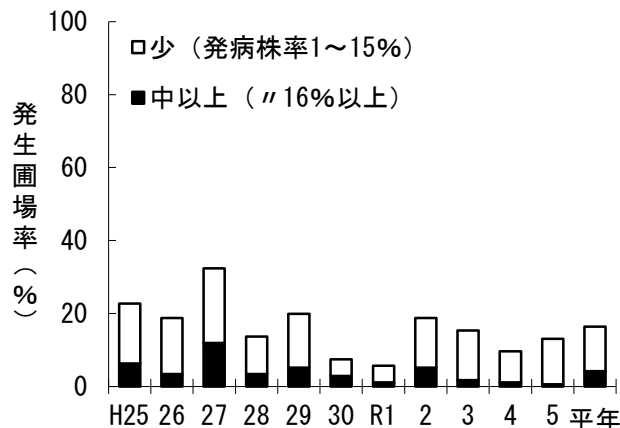


図4 紋枯病発生圃場率の年次推移（8月上旬）

※ 病斑が第3葉鞘以上に達しているものを発病とした。

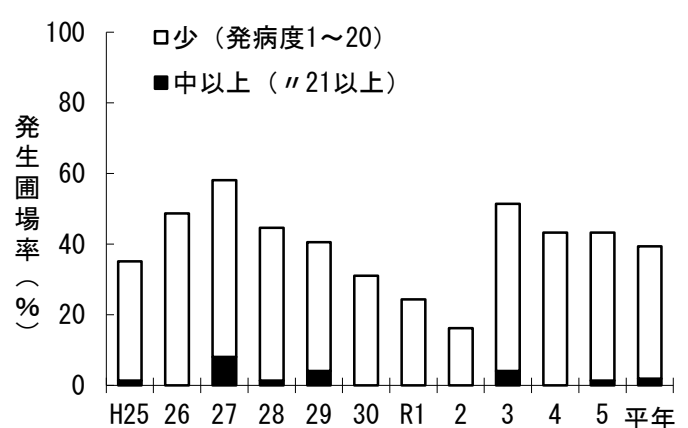


図5 紋枯病発生圃場率の年次推移（8月下旬）

※ 病斑が第3葉鞘以上に達しているものを発病とした。

### 3 稲こうじ病

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率は4.1%（平成6.1%）で平年よりやや低かった（図6）。

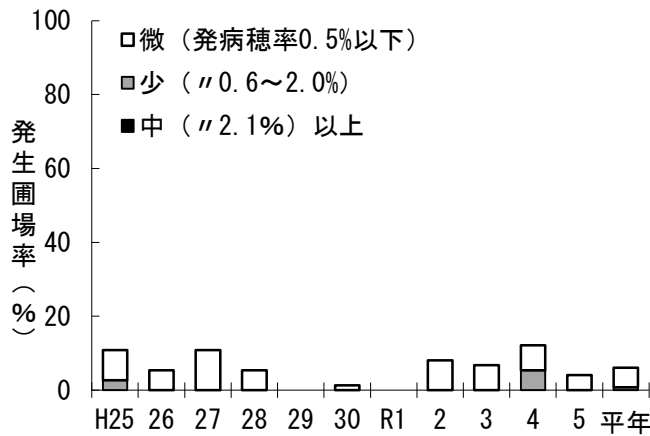


図6 稲こうじ病発生圃場率の年次推移 (8月下旬)

### 4 その他病害等

- (1) 8月下旬の巡回調査では、葉鞘褐変病の穂における発生は確認されなかった。
- (2) 8月下旬の巡回調査では、内穎褐変の発生圃場率は62.2%（平成30.9%）で、平年より高かった（図省略）。

### 5 斑点米カメムシ類

- (1) 基準圃場（北上市成田、イタリアンライグラス）におけるすくい取り調査では、8月第2～第4半旬にかけてアカスジカスミカメ成虫の発生ピークが見られた（図7）。
- (2) 8月上旬の本田内すくい取り調査では、発生圃場率54.5%（平成41.5%）で平年よりやや高かったが、圃場あたり虫数は1.9頭（平成2.8頭）で平年より低かった（図8左）。
- (3) 8月下旬の本田内すくい取り調査では、発生圃場率32.4%（平成35.7%）、圃場あたり虫数2.7頭（平成2.4頭）でいずれも平年並だった（図8右）。

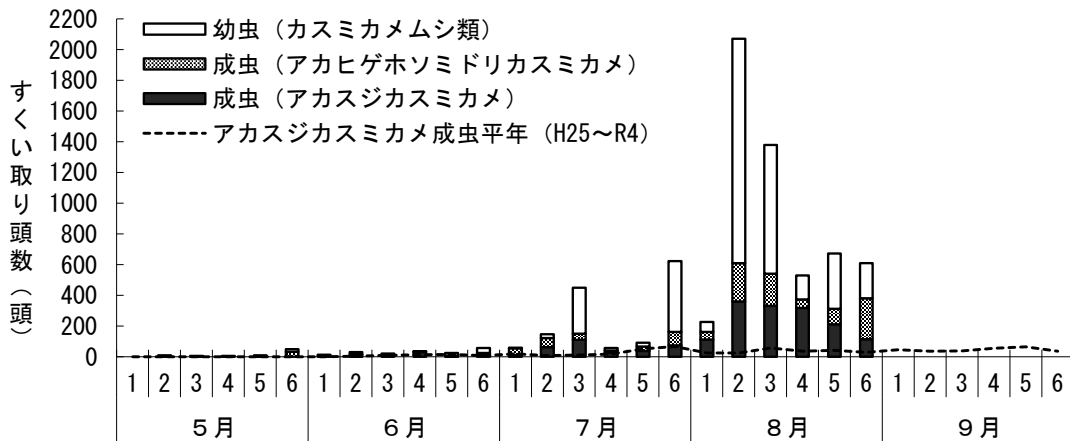


図7 基準圃場（北上市成田、イタリアンライグラス）におけるカスミカメムシ類の発生推移 (すくい取り 往復20回振)

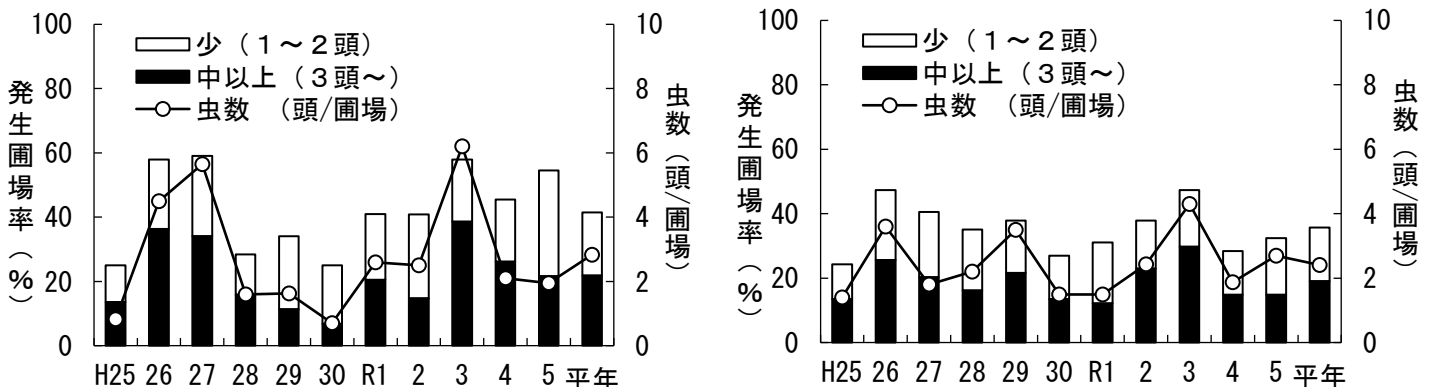


図8 斑点米カメムシ類の発生圃場率の年次推移

(左：8月上旬、右：8月下旬、本田内すくい取り、往復20回振)

## 6 ウンカ類

### (1) セジロウンカ

8月下旬の本田内すくい取り調査では、発生圃場率は27.0%（平年34.5%）で平年よりやや低く、発生程度少以上の圃場は見られなかった（図9左）。

### (2) ヒメトビウンカ

8月下旬の本田内すくい取り調査では、発生圃場率は70.3%（平年68.0%）で平年並であり、発生程度少の圃場が1圃場確認された（図9右）。

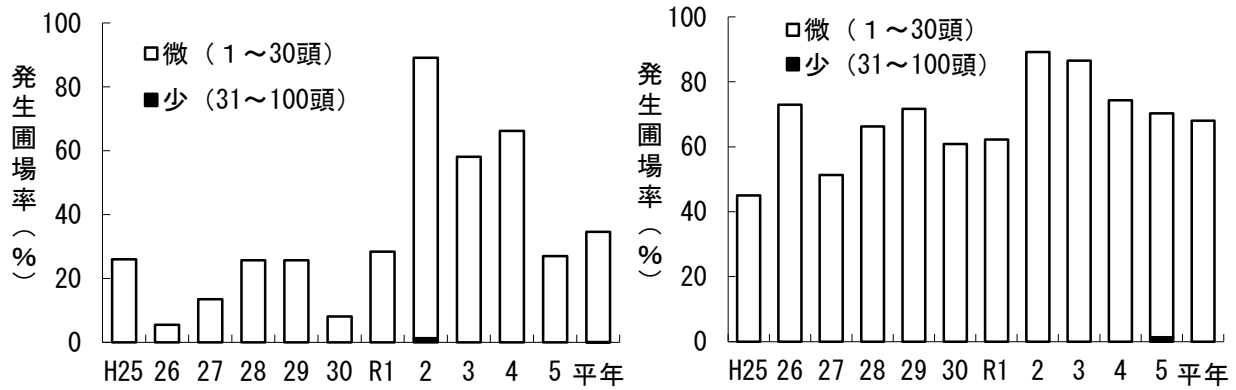


図9 ウンカ類の発生圃場率の年次推移

（左：セジロウンカ、右：ヒメトビウンカ、8月下旬、本田内すくい取り、往復20回振）

## 7 イナゴ類

(1) 8月下旬の本田内すくい取り調査では、発生圃場率は20.3%（平年52.8%）で平年より低かった（図10）。

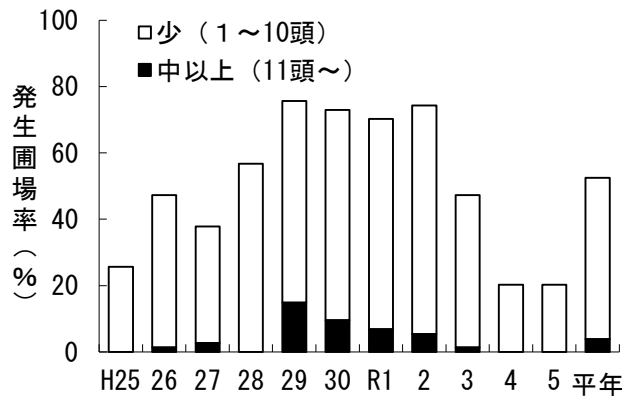


図10 コバネイナゴの発生圃場率の年次推移

（8月下旬、本田内すくい取り、往復20回振）

## 8 ツマグロヨコバイ

(1) 8月上旬の本田内すくい取り調査では、発生は確認されなかった。

# 農作物病害虫発生現況情報（8月）りんご編

## 1 斑点落葉病

(1) 8月後半の巡回調査では、発生園地率は80.6%（平年67.4%）で平年より高かった。また、発生程度中以上の園地率は35.5%（平年17.4%）で平年より高かった（図1）。

## 2 褐斑病

(1) 8月後半の巡回調査では、発生園地率は51.6%（平年14.8%）で平年より高かった。また、発生程度中以上の園地率は22.6%（平年5.5%）で平年より高かった（図2）。

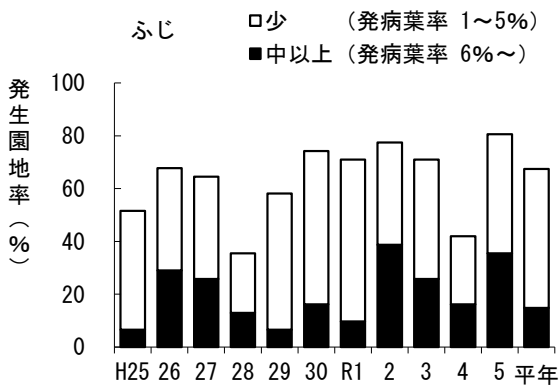


図1 斑点落葉病の発生園地率の年次推移 (ふじ、8月後半、徒長枝上位10葉)

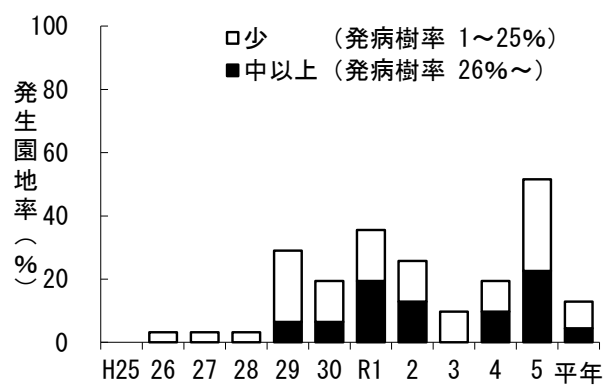


図2 褐斑病の発生園地率の年次推移 (8月後半)

## 3 黒星病

(1) 8月後半の巡回調査は、発生園地率は25.8%（平年11.0%）で平年より高かった。また、発生程度中以上の園地率は9.7%（平年2.9%）で平年より高かった（図3）。

(2) 地域別の発生園地率は、県中部は46.7%（平年13.3%）で平年より高く、県北部は20.0%（平年24.0%）で平年並だった（図4）。

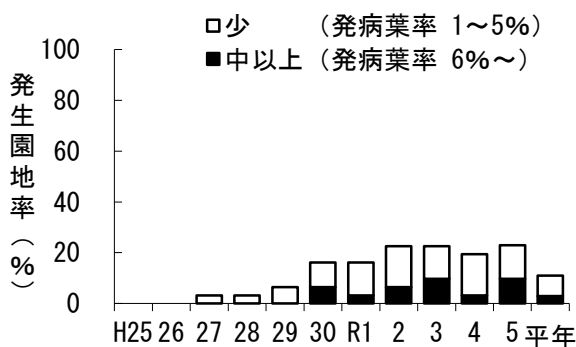


図3 黒星病の発生園地率の年次推移 (8月後半、徒長枝葉)

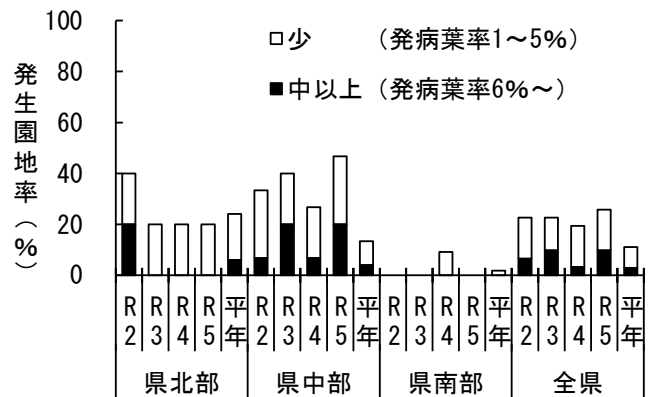


図4 黒星病の地域別発生園地率 (8月後半、徒長枝葉)

#### 4 リンゴハダニ

- (1) 8月後半の巡回調査での目通りの発生園地率は29.0%（平年26.5%）で、平年並だった（図5）。
- (2) 地域別では、県北部及び県中部で発生園地率は平年より低く、県南部では高かった（図6）。

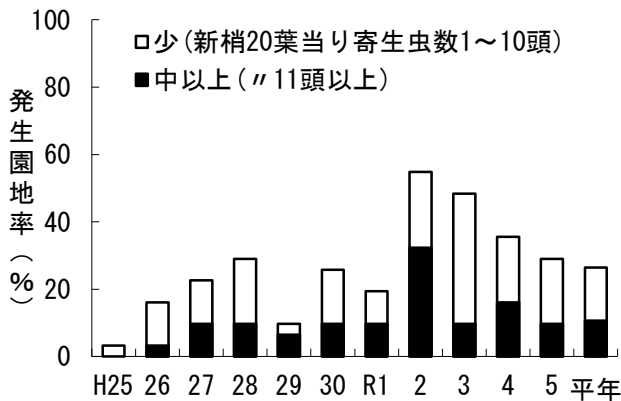


図5 リンゴハダニの発生園地率の年次推移  
(8月後半、目通り)

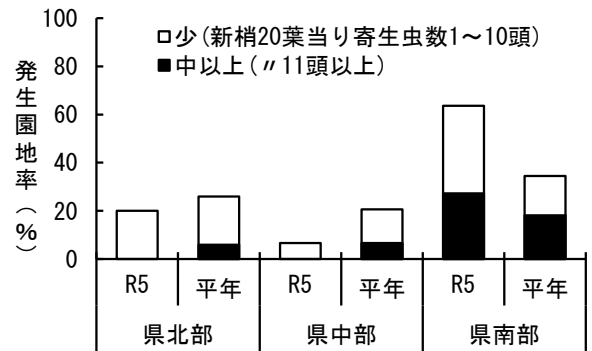


図6 リンゴハダニの地域別発生園地率  
(8月後半、目通り)

#### 5 ナミハダニ

- (1) 8月後半の巡回調査での目通りの発生園地率は29.0%（平年52.6%）で、平年より低かった（図7）。
- (2) 地域別では、県北部及び県中部で発生園地率は平年より低く、県南部では平年並だった（図8）。

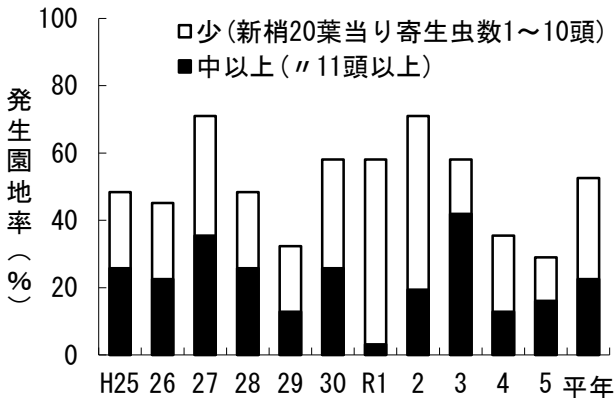


図7 ナミハダニの発生園地率の年次推移  
(8月後半、目通り)

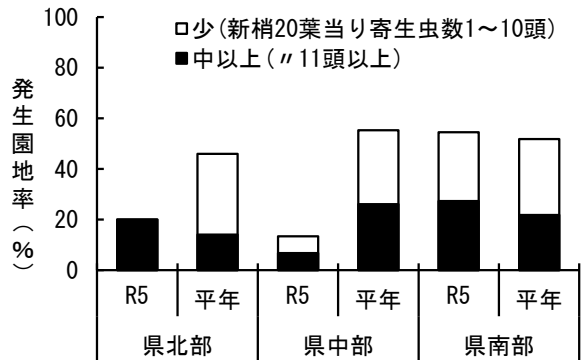


図8 ナミハダニの地域別発生状況  
(8月後半、目通り)

#### 6 ハマキムシ類

- (1) 8月前半の巡回調査での被害徒長枝率は、3.2%（平年0.6%）であった（図9）。

#### 7 キンモンホソガ

- (1) 8月後半の巡回調査での第3世代の発生園地率は45.2%（平年7.4%）で、平年より高かった（図10）。
- (2) 地域別では、いずれの地域も発生程度中以上の園地が見られた（図11）。

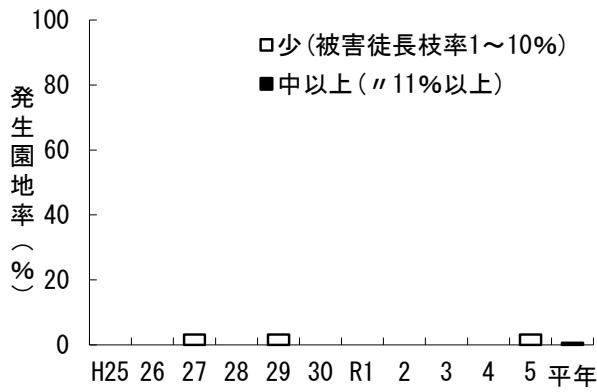


図9 ハマキムシ類の発生園地率の年次推移 (8月前半)

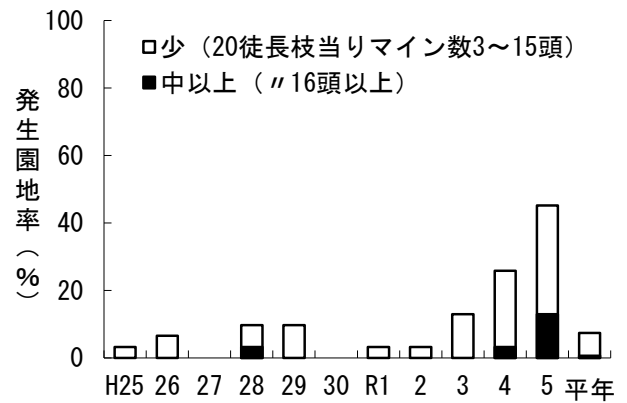


図10 キンモンホソガの発生園地率の年次推移 (8月後半)

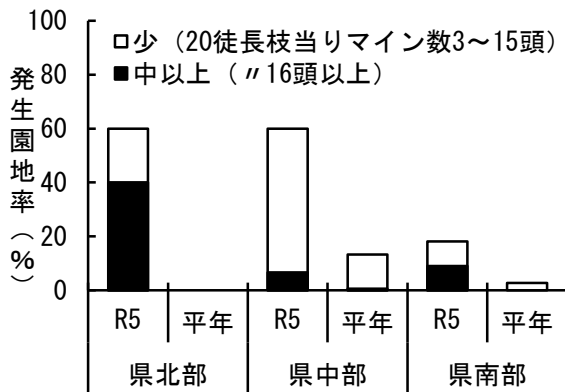


図11 キンモンホソガの地域別発生状況 (8月後半、目通り)

## 8 果樹カメムシ類

- (1) 8月後半の巡回調査での被害果発生園地率は41.9% (平年24.8%)で、平年よりやや高かった。また、発生程度が中以上は9.7% (平年1.0%)で、平年より高かった (図12)。
- (2) 被害果の時期別発生園地率は、8月前半から平年より高くなり、8月後半では、発生程度が中以上の園地が増加した (図13)。
- (3) 集合フェロモントラップへのチャバネアオカメムシの誘殺数は、基準圃場 (北上市成田：無防除) では、8月以降、平年並に推移した。現地園地 (盛岡市川目) の誘殺数は、7月第3半句以降、平年より高く推移した (図14)。
- (4) 予察灯へのクサギカメムシの誘殺数は平年より少なく推移した (図15)。

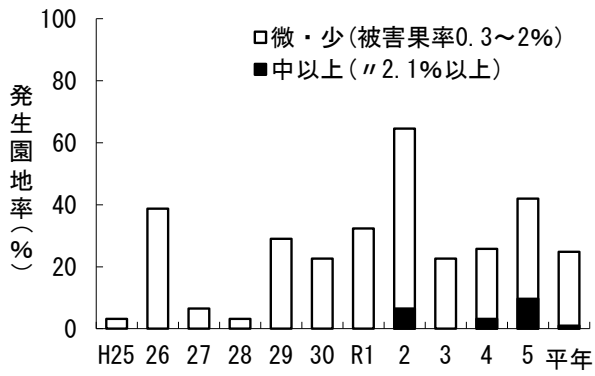


図12 果樹カメムシ類被害果の発生園地率の年次推移（8月後半）

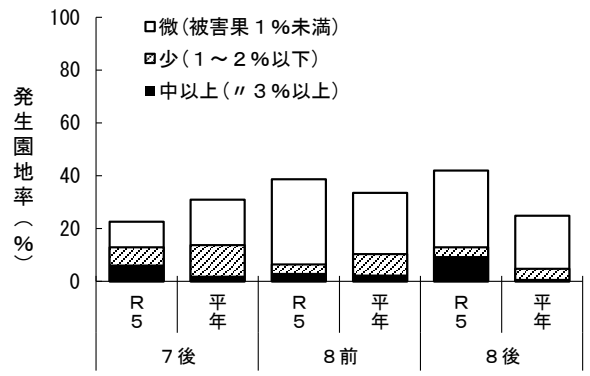


図13 果樹カメムシ類被害果の時期別発生園地率（8月後半）

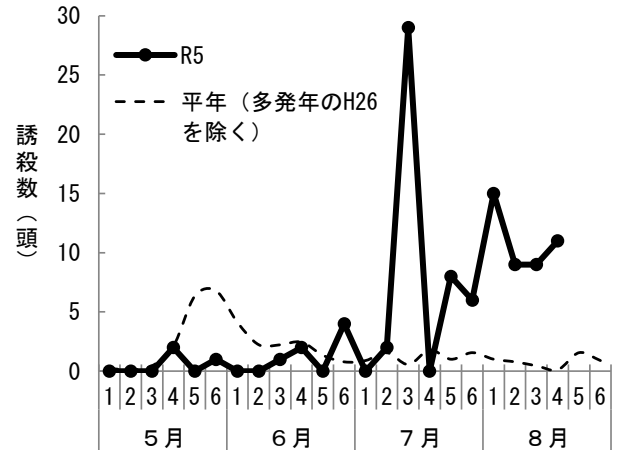
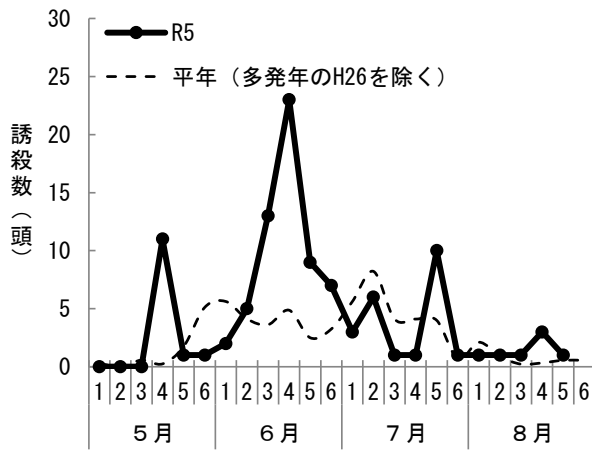


図14 チャバネアオカメムシの集合フェロモントラップでの誘殺状況（左：基準圃場（北上市成田）、右：盛岡市川目）

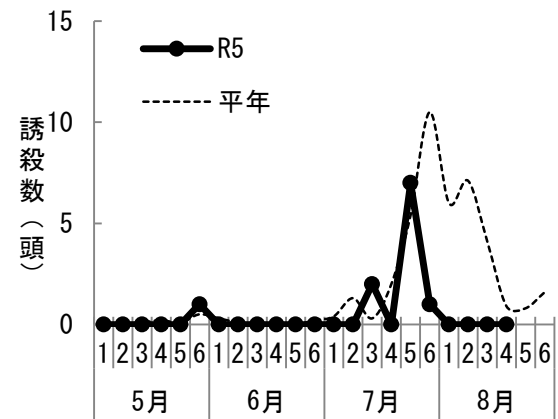
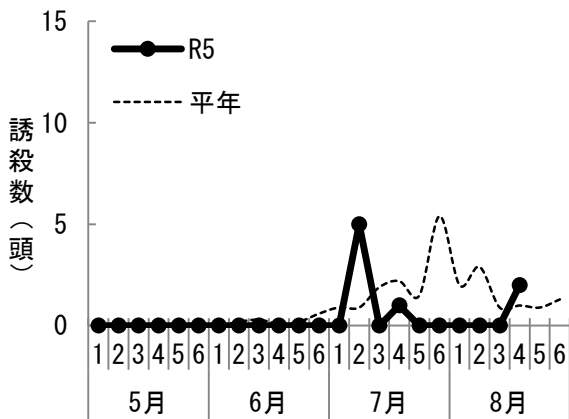


図15 クサギカメムシの予察灯への誘殺状況（左：北上市成田、右：盛岡市川目）

# 農作物病害虫発生現況情報（8月）きゅうり編

## 1 ベと病

(1) 8月下旬の巡回調査での発生圃場率は76.9%（平成62.9%）で、平年並だった（図1）。

## 2 うどんこ病

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率は15.4%（平成30.5%）で、平年よりやや低かった（図2）。

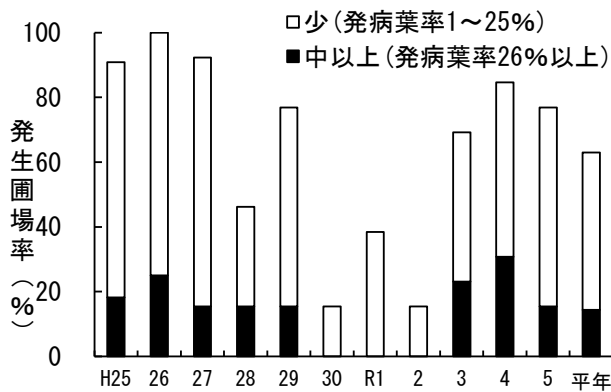


図1 ベと病の発生圃場率の年次推移 (8月下旬)

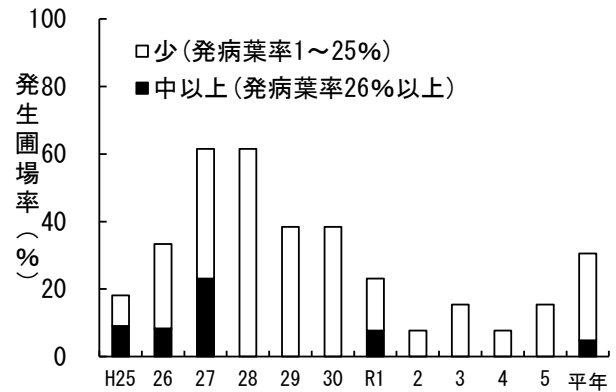


図2 うどんこ病の発生圃場率の年次推移 (8月下旬)

## 3 褐斑病

(1) 8月下旬の巡回調査での発生圃場率は92.3%（平成50.6%）、発生程度が中以上の圃場率は53.8%（平成28.1%）で、いずれも平年より高かった（図3）。

## 4 炭疽病

(1) 8月下旬の巡回調査での発生圃場率は100.0%（平成74.9%）で平年より高かったが、発生程度が中以上の圃場率は15.4%（平成13.3%）で平年並だった（図4）。

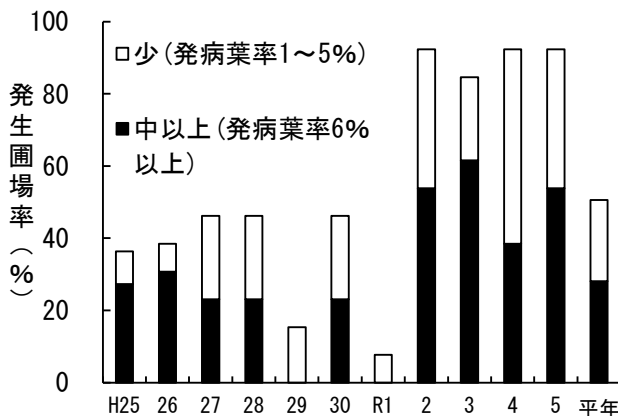


図3 褐斑病の発生圃場率の年次推移 (8月下旬)

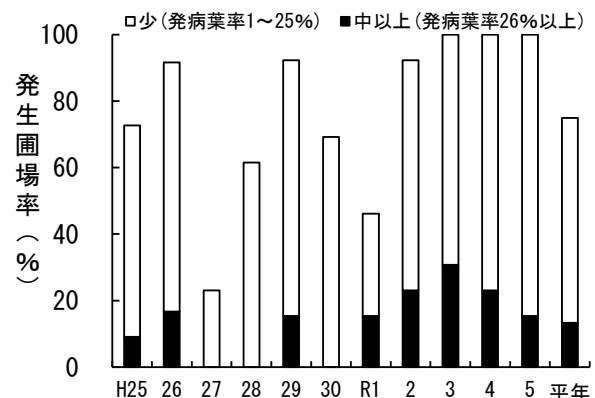


図4 炭疽病の発生圃場率の年次推移 (8月下旬)

## 5 斑点細菌病

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生は確認されなかった（平成20.8%、図5）。



## 6 黒星病

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生は確認されなかった(平年17.9%、図6)。

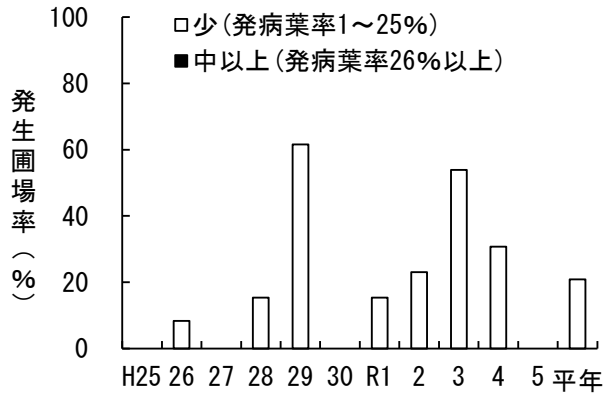


図5 斑点細菌病の発生圃場率の年次推移 (8月下旬)

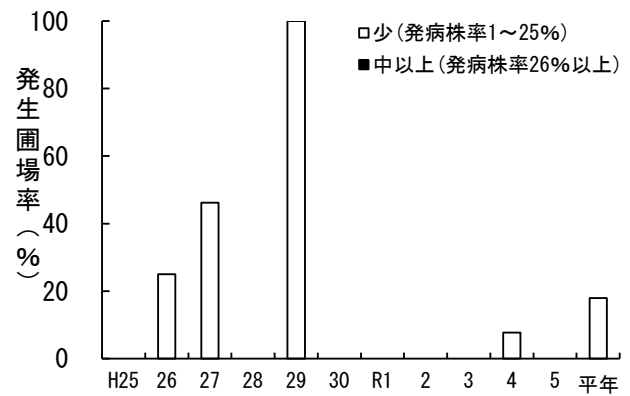


図6 黒星病の発生圃場率の年次推移 (8月下旬)

## 7 アブラムシ類

(1) 8月下旬の巡回調査での発生圃場率は23.1% (平年7.8%) で平年よりやや高く、発生程度の高い圃場が1圃場確認された(図7)。

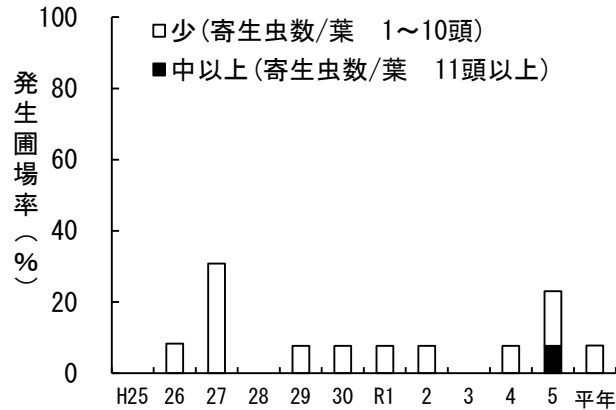


図7 アブラムシ類の発生圃場率の年次推移 (8月下旬)

## 8 ウリノメイガ (ワタヘリクロノメイガ)

(1) 8月下旬の巡回調査での発生圃場率は61.5% (平年7.2%) で平年より高く、発生程度の高い圃場が1圃場確認された(図8)。

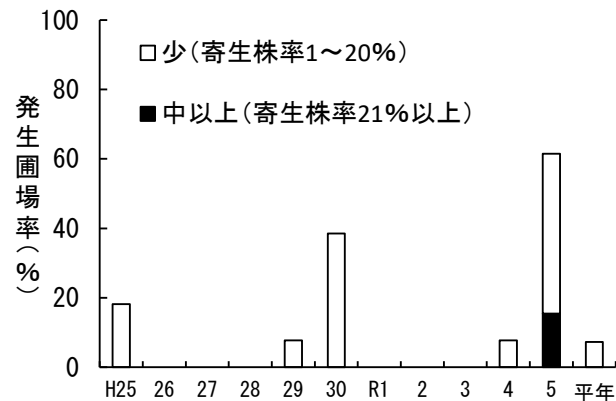


図8 ウリノメイガ (ワタヘリクロノメイガ) の発生圃場率の年次推移 (8月下旬)

# 農作物病害虫発生現況情報（8月）キャベツ編

## 1 コナガ

- (1) 基準圃場（北上市成田）におけるフェロモントラップへの誘殺数は、平年より少なく推移した（図1）。
- (2) 軽米町におけるフェロモントラップへの誘殺数は、平年より少なく推移した（図2）。
- (3) 岩手町におけるフェロモントラップへの誘殺数は、平年より少なく推移した（図3）。
- (4) 8月中旬の巡回調査では、産卵圃場率は7.7%（平年16.5%）で平年より低く、幼虫の発生圃場率は30.8%（平年34.7%）で平年並だった（図4、5）。

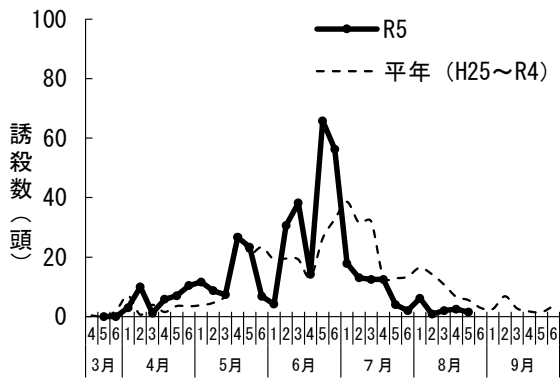


図1 基準圃場（北上市成田）におけるコナガのフェロモントラップ誘殺状況

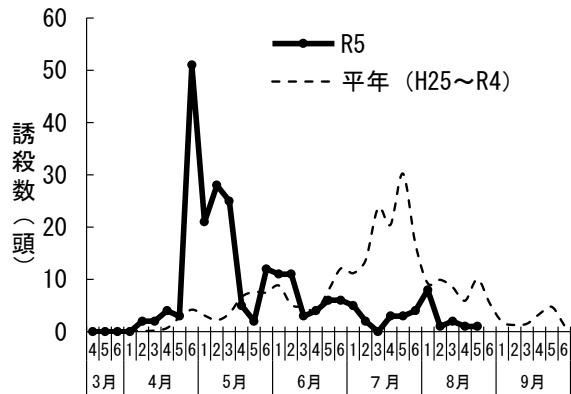


図2 軽米町におけるコナガのフェロモントラップ誘殺状況

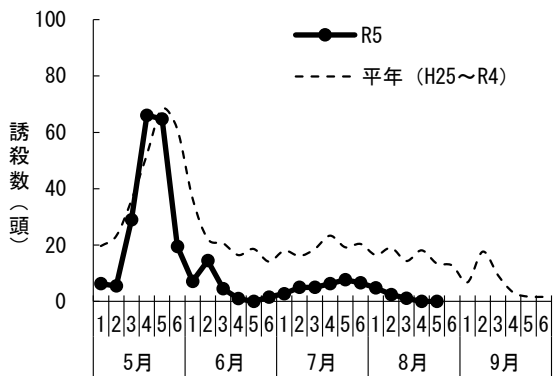


図3 岩手町におけるコナガのフェロモントラップ誘殺状況

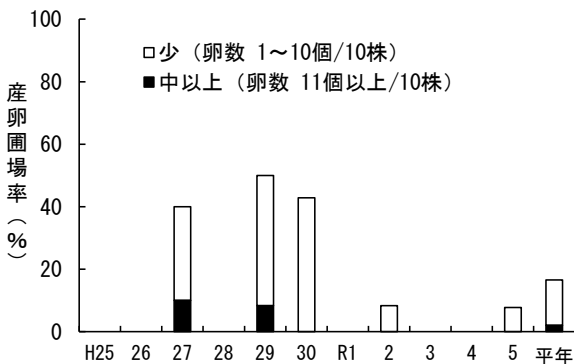


図4 コナガ産卵圃場率の年次推移（8月中旬）

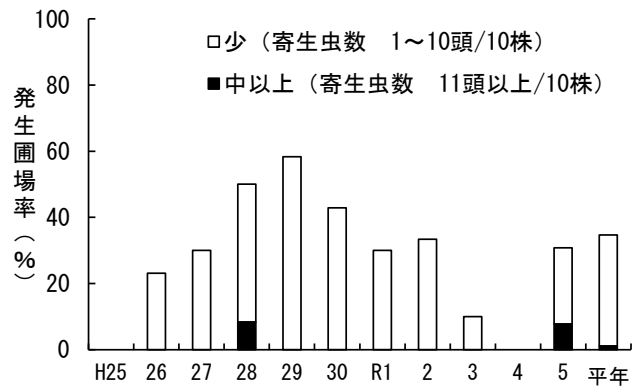


図5 コナガ幼虫発生圃場率の年次推移（8月中旬）

## 2 ヨトウガ

- (1) 基準圃場（北上市成田）におけるフェロモントラップへの誘殺は、8月には確認されなかった（図6）。
- (2) 軽米町におけるフェロモントラップへの誘殺は、8月には確認されなかった（図7）。
- (3) 岩手町におけるフェロモントラップへの誘殺数は、8月第1半旬にピークが見られた（図8）。
- (4) 8月中旬の巡回調査では、産卵圃場率は15.4%（平年16.8%）で、平年並だった（図9）。

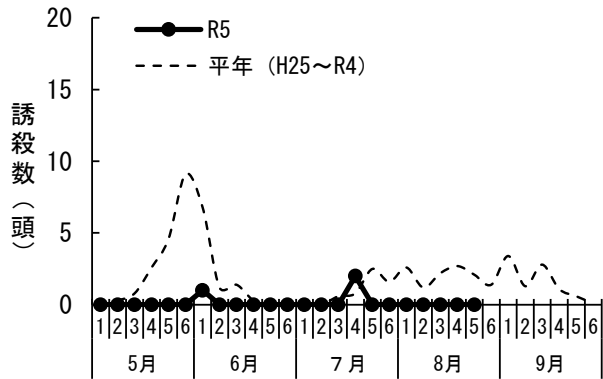


図6 基準圃場（北上市成田）におけるヨトウガの誘殺状況

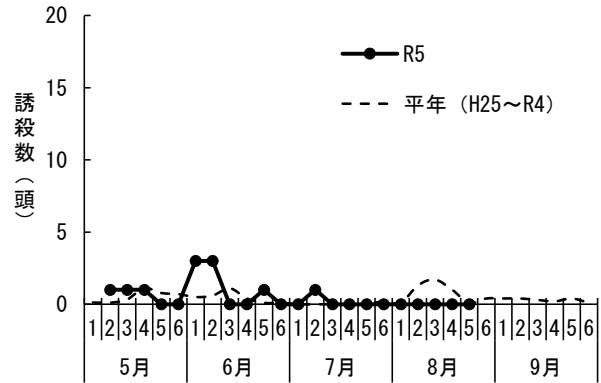


図7 軽米町におけるヨトウガのフェロモントラップ誘殺状況

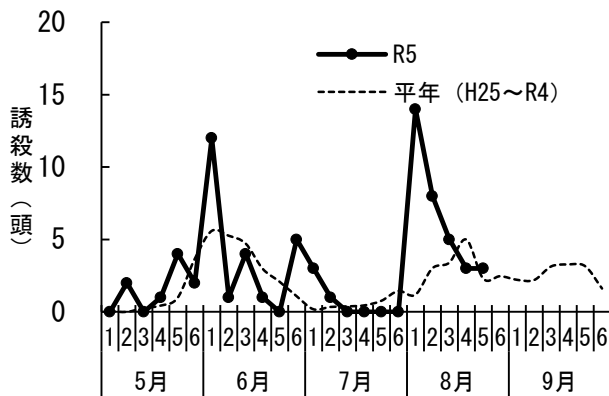


図8 岩手町におけるヨトウガのフェロモントラップ誘殺状況

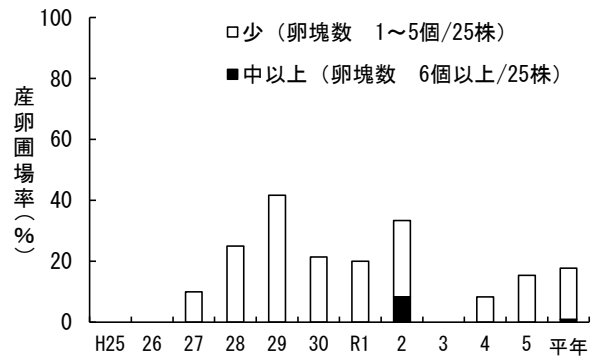


図9 ヨトウガ産卵圃場率の年次推移（8月中旬）

### 3 タマナギンウワバ

- (1) 基準圃場（北上市成田）におけるフェロモントラップへの誘殺数は、平年より少なく推移した（図10）。
- (2) 軽米町におけるフェロモントラップへの誘殺数は、8月第3半旬に増加がみられた（図11）。
- (3) 岩手町におけるフェロモントラップへの誘殺数は、平年よりやや多く推移した（図12）。
- (4) 8月中旬の巡回調査では、幼虫の発生圃場率は46.2%（平年20.4%）で、平年より高かった（図13）。

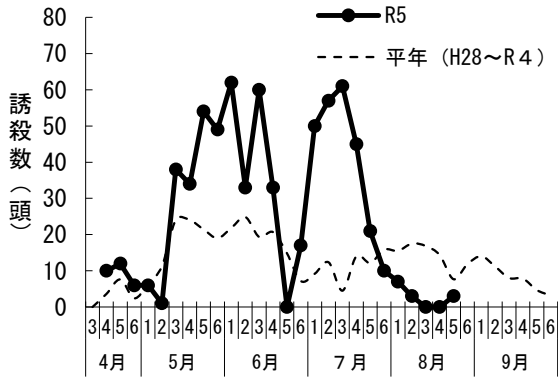


図10 基準圃場（北上市成田）におけるタマナギンウワバのフェロモントラップ誘殺状況

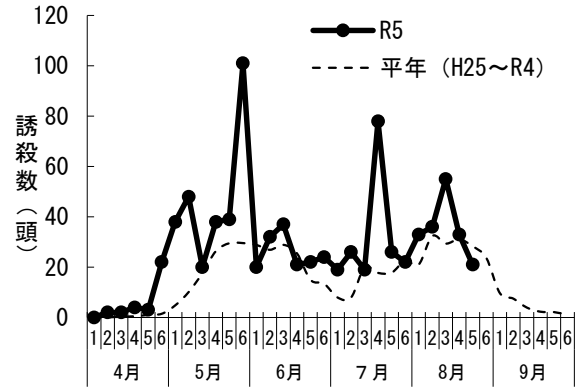


図11 軽米町におけるタマナギンウワバのフェロモントラップ誘殺状況

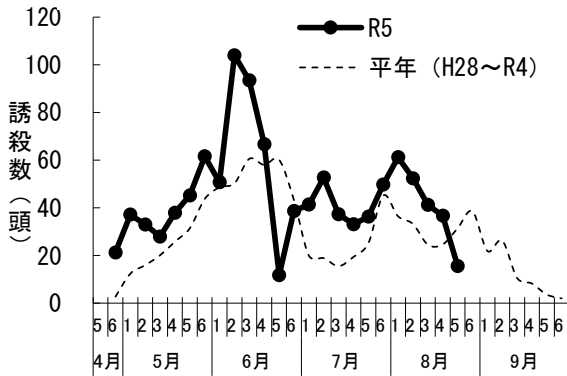


図12 岩手町におけるタマナギンウワバのフェロモントラップ誘殺状況

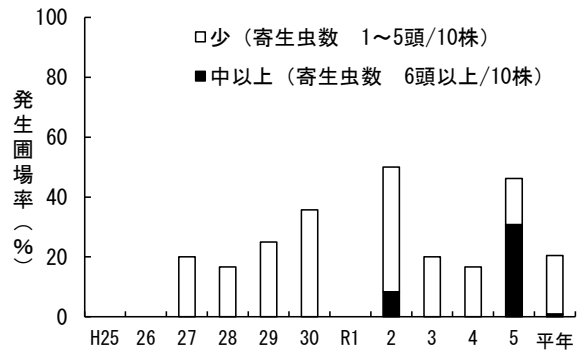


図13 ウワバ類幼虫発生圃場率の年次推移（8月中旬）

### 4 モンシロチョウ

- (1) 8月中旬の巡回調査では、幼虫の発生圃場率は23.1%（平年21.6%）で、平年並だった（図14）。

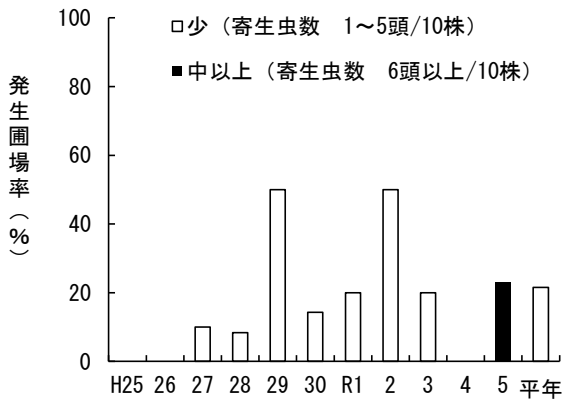


図14 モンシロチョウ幼虫発生圃場率の年次推移（8月中旬）

# 農作物病害虫発生現況情報（8月） ねぎ編

## 1 さび病

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率は10.0%（平年29.9%）で平年より低かった（図1）。

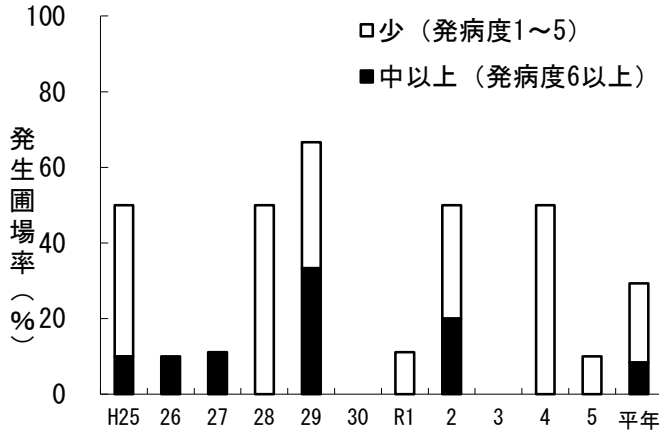


図1 さび病の発生圃場率の年次推移

## 2 べと病

(1) 8月上旬の巡回調査では、発生圃場率は10.0%（平年11.3%）で平年並だった（図2）。

(2) 8月下旬の巡回調査では、発生は確認されなかった（平年3.2%、図3）。

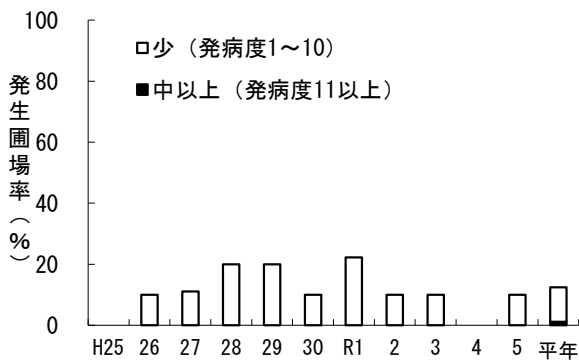


図2 べと病の発生圃場率の年次推移（8月上旬）

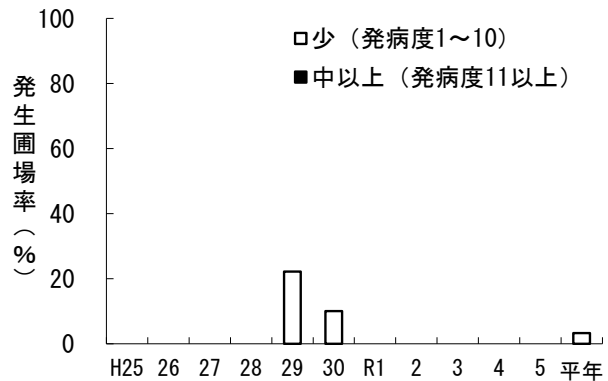


図3 べと病の発生圃場率の年次推移（8月下旬）

## 3 黒斑病・葉枯病

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率は70.0%（平年78.0%）であり、平年並だった（図4）。

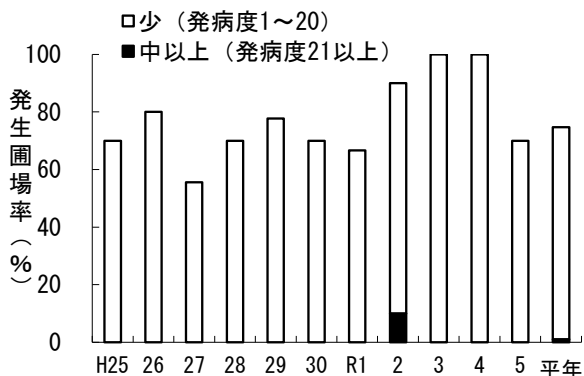


図4 黒斑病・葉枯病の発生圃場率の年次推移（8月下旬）

#### 4 ネギコガ

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率は50.0%（平年50.0%）であり、平年並だった（図5）。

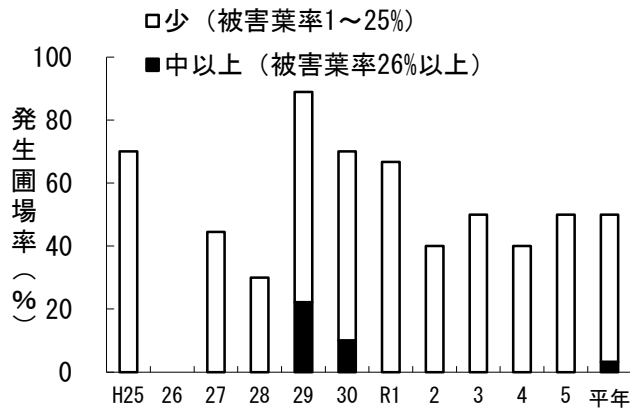


図5 ネギコガの被害発生圃場率の年次推移

#### 5 ネギハモグリバエ

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率は50.0%（平年77.4%）であり、平年より低かった（図6）。

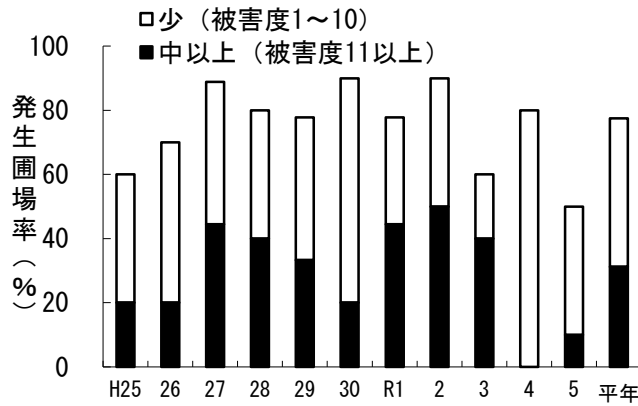


図6 ネギハモグリバエの被害発生圃場率の年次推移

#### 6 ネギアザミウマ

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率は100.0%（平年88.4%）で平年よりやや高く、発生程度中以上の圃場率は50.0%（平年47.3%）で平年並だった（図7）。

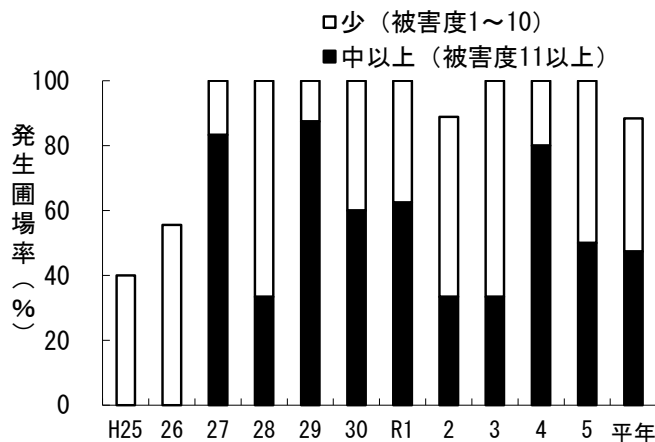


図7 ネギアザミウマの被害発生圃場率の年次推移

# 農作物病害虫発生現況情報（8月）りんどう編

## 1 葉枯病

(1) 8月下旬の巡回調査での発生圃場率は53.8%（平年25.4%）、採花部での発生圃場率は15.4%（平年8.8%）で、いずれも平年より高かった（図1）。

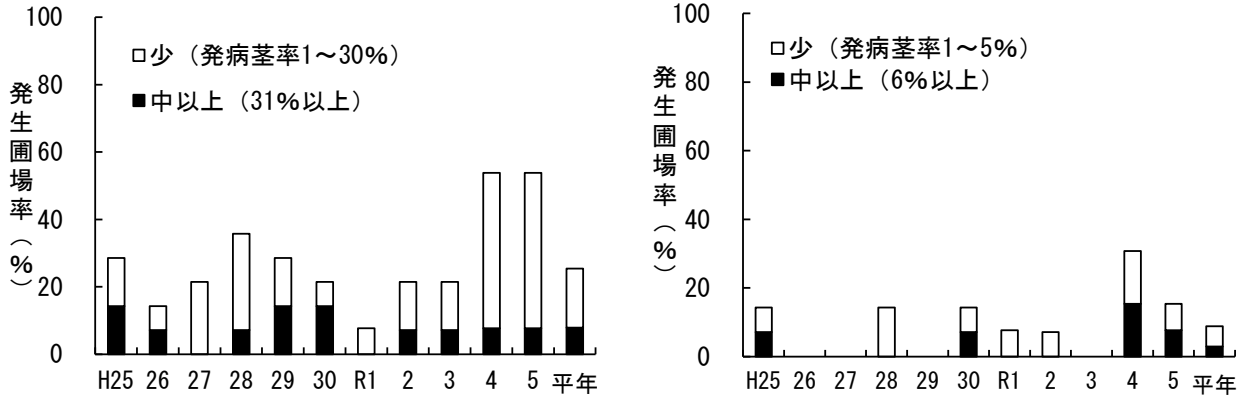


図1 葉枯病の発生圃場率の年次推移（左：発病茎率、右：採花部での発病茎率、8月下旬）

## 2 褐斑病

(1) 8月下旬の巡回調査での発生圃場率は7.7%（平年2.9%）で、平年より高かった（図2）。

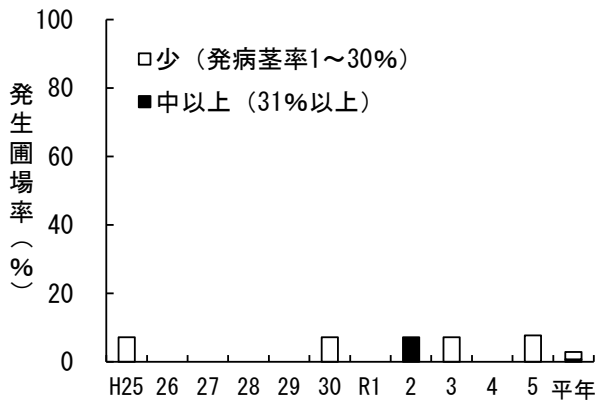


図2 褐斑病の発生圃場率の年次推移（8月下旬）

## 3 黒斑病

(1) 8月下旬の巡回調査での発生圃場率は30.8%（平年値なし）で、発生程度の高い圃場も確認された（図3）。

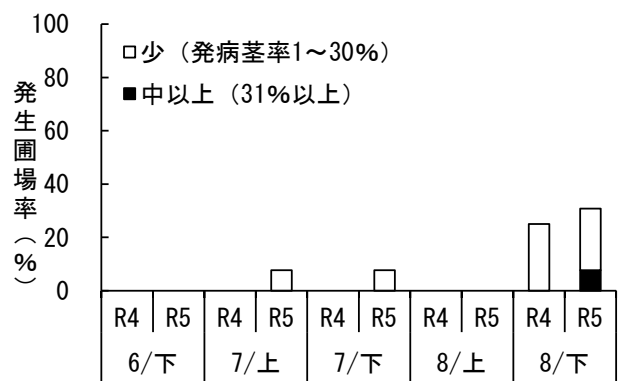


図3 黒斑病の発生圃場率の時期別推移

## 4 花腐菌核病

(1) 8月下旬の巡回調査では、発病は確認されなかった。

## 5 ハダニ類

(1) 8月下旬の巡回調査での発生圃場率は30.8% (平年29.0%) で平年並であり、発生程度の高い圃場や寄生虫数の多い圃場は確認されなかった (図4)。

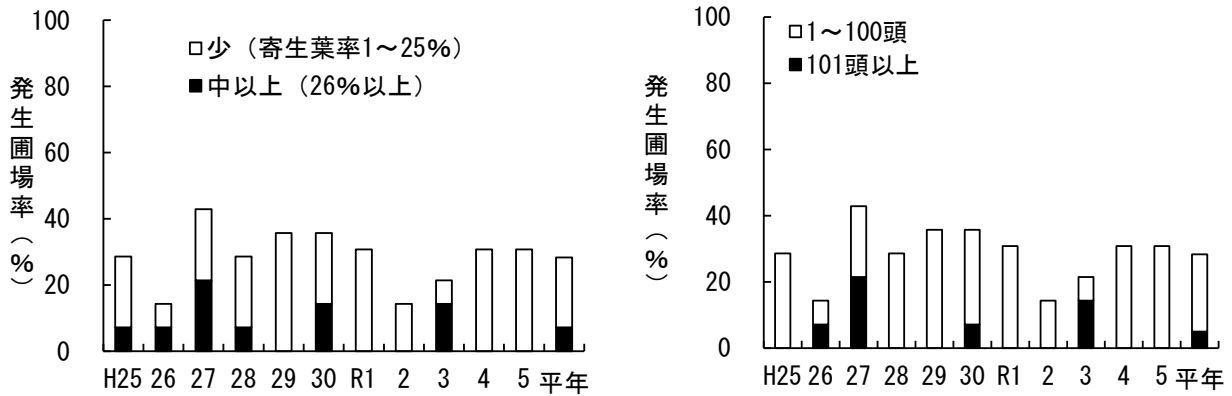


図4 ハダニ類の発生圃場率の年次推移 (左: 寄生葉率、右: 寄生虫数/80葉中、8月下旬)

## 6 リンドウホソハマキ

(1) 8月下旬の巡回調査での潜葉痕の発生圃場率は23.1% (平年37.3%) で平年より低く、生長部及び茎部の被害は確認されなかった (平年14.5%、図5)。

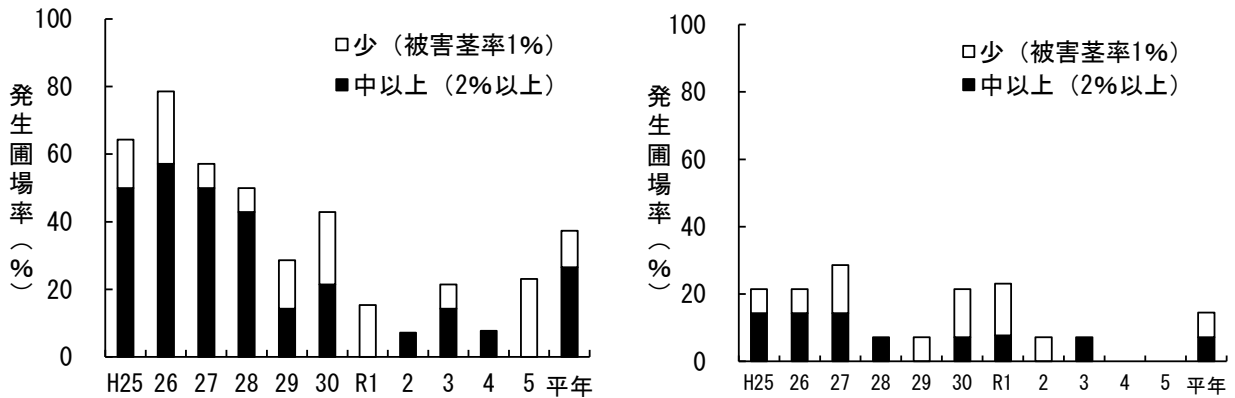


図5 リンドウホソハマキの発生圃場率の年次推移 (左: 潜葉痕、右: 生長部・茎部、8月下旬)

## 7 アザミウマ類

(1) 8月下旬の巡回調査での発生圃場率は80.0% (平年72.1%) で、平年並だった (図6)。

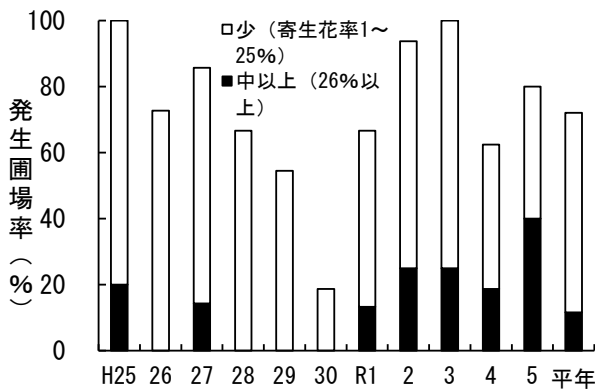


図6 アザミウマ類の発生圃場率の年次推移 (8月下旬)

## 8 アブラムシ類

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生は確認されなかった。